旅の会 提案の旅
渡辺 雅子さんの企画

現地集合／現地解散

地学さんぽ

江戸の川越、縄文の川越

日帰り

「蔵の街川越はいかに成立したか」を探る旅

河岸(冬景色)
河岸場跡。川越と江戸を結んだ舟がいきかい、周辺は茶屋があり賑わっていた。

今や人気のスポット、蔵の街川越を違った角度から巡ってみませんか？川越の地形や地質を地学専門家の案内で観察しながら、「蔵の街川越がいかに成立したか」をひも解きましょう。 川越台地の崖線を歩き、縄文の海の証拠である小仙波貝塚へ。近くでは縄文人の生活の跡が見つかるかも。龍池弁財天や古刹・喜多院にも縄文の記憶が…。蔵の街川越の繁栄を築いた江戸と川越を結んだ新河岸川舟運の仙波河岸跡、狭山茶発祥の地・中院、日本百名城の一つ初雁(川越)城へは古地図をたどり、天神様の細道をぬけて本丸御殿へ(入場)。解散は小江戸の象徴でもある「時の鐘」です。お時間のある方は川越の街の自由散策をお楽しみ下さい。

龍池弁財天・双子池。
この名は江戸と縄文の面白い民話にちなむ。

関東八箇檀林中院。狭山茶発祥の地。
境内には島崎藤村ゆかりの茶室・不染亭が

昼食は老舗うなぎ屋「東屋」で

ランチはその佇まいも魅力のうなぎ「東屋」でお庭を愛でながらいただきます。明治元年創業、現在の建物は大正のもの。磨き込まれた廊下や網代天井などが歴史のまち川越の老舗らしいお店です。お座敷ですが、正座の不安のある方は小さな椅子のご用意があります。今回はお部屋を分けてゆったりとしたお席を準備いたします。

川の町、川越はうなぎが今も昔も名物。

一緒に歩くのは地学の専門家

講師は久津間文隆（大東文化大学・ふじみ野市文化財審議委員）さん。地学と川越を愛する生粋の川越っ子。

久津間文隆先生。
仙波河岸公園の露頭の前で。

初雁(川越)城。東日本にただ一つ残る本丸御殿。なぜ残ったのか？

旅行日	2021年11月12日(金)・13日(土)		
旅行代金	(お一人様)12,200円	募集人員	16名様 (最少催行人員12名様)

9:30川越駅東口発➡仙波河岸公園➡龍池弁財天・双子池➡小仙波貝塚➡中院➡喜多院➡12:30～13:30 東屋ランチ➡浮島稲荷神社➡三芳野神社・初雁城御本丸14:00～14:45➡時の鐘15:30解散予定

■添乗員／同行します　■食事／昼食1回
■集合場所／川越駅(JR・東上線)改札脇交番前 西武線本川越駅からは徒歩12分(バス便あり)
■集合時間／午前9時20分
※スケジュールは天候状況、交通事情により日程の一部が変更される場合があります。
※午前中歩くコースには飲食店などがありません。お飲み物等の準備をお願いします。
※比較的平坦な道ですが、神社などには急な階段もございます。歩きなれたしっかりした靴での参加をお願いします。(歩行距離 6 km)
※コロナ対策としてマスクの着用、食事時の黙食にご協力ください。

コース番号:3000-0029